長崎県立壱岐高等学校　広報誌第243号　　題字：書道部　　令和８年１月３０日

飛沫（しぶき）を浴びて

「対話的な学びの実践を通して」　　国語科教諭　植 松 美 砂

先日、2年生国語科において、芥川龍之介『羅生門』を題材にした研究授業を行いました。本授業では、物語中の下人の行為を「罪に問えるのか」という問いを設定し、模擬裁判の形式で本文を根拠に判断する活動に取り組みました。

生徒たちは、感覚的な「かわいそう」「仕方がない」といった印象だけで結論を出すのではなく、「本文のどの一文がその主張を支えているのか」を意識しながら意見を組み立てていました。検察側・弁護側の主張や反論には必ず本文の引用が添えられ、文章に立ち返って考える姿が多く見られたことは、大きな成果でした。判断が分かれたこと自体も、作品を多面的に読み取れた証だと感じています。

＜証言を行う生徒＞

一方で、授業改善の視点も見えてきました。検察・弁護それぞれの判断や根拠を黒板やプロジェクターを用いて可視化できていれば、議論の流れをより共有しやすくなったと思います。また、「たしかに～、しかし～」といった譲歩構文の型をあらかじめ示すことで、相手の意見を受け止めつつ自分の考えを伝える力を、さらに伸ばすことができたのではないかと考えています。加えて、役割が偏ってしまったので、傍聴席の生徒たちを「裁判員」と位置づけ、話し合いの場を設けることも今後の課題です。

＜検察、弁護側の主張を聴き、判決を決めるため、議論をしている裁判員たち＞

本授業で大切にしたのは、結論そのものよりも「自分の意見を、根拠を示しながら相手に伝える力」です。法曹界に進むかどうかに関わらず、生徒たちはこれから、さまざまな場面で判断し、自分の考えを伝える機会を迎えます。その際、事実や根拠を基に説得力のある形で伝える力は、生きていくうえで、きっと役立つ力だと考えています。今回の模擬裁判は、その力を培うための一つの実践でした。今後も、本文に立ち返りながら考え、対話を通して判断を深める学びを大切にしていきます。

◆1学年島内ツアー（総合的な探究の時間）（令和７年１２月２６日（金））

第１学年が総合的な探究の時間の活動の一環で「島内ツアー」を行いました。生徒たちは、まちづくり班、観光班、農業班、エネルギー班の4つのグループに分かれ、壱岐市内の観光地や商業施設、生活基盤等を訪れました。生徒たちは、それぞれの場所の良いところや課題点、工夫している点等を実際にそこで働いている方々からお聞きし、壱岐市の現状や、創意工夫されている点を現地で学びました。今回学んだことを今後の総合的な探究の時間に活かしていきたいと思います。

＜勝本町を散策する生徒たち＞

＜アスパラガスの高畝栽培を見学する生徒＞

ご協力いただいた、マリン宝盛荘、壱岐テレワークセンター、フリーウィルスタジオ、ゲストハウスnagatafure、JA壱岐市営農センター、株式会社ルートレック・ネットワークス、壱岐市役所地域共創課、壱岐芦辺風力発電所、LAMP壱岐、ACB工房、芦辺郵便局、ACBliving、大福丸書店、芦辺まちづくり協議会、勝本浦まちづくり協議会の皆様、大変ありがとうございました。

＜風車を眺める生徒＞

◆今月の玲瓏星

『修学旅行委員会の大黒柱』

☆２年４組　横山　拓三（たくぞう）　さん☆

拓三さんは修学旅行実行委員会委員長を務めました。全員の前に立って修学旅行の意義を話してくれたり、旅行中も全体に指示したりと責任をもって取り組んでくれました。修学旅行を経て、自分に足りないこともできるようになったことも実感し、一回り成長した拓三さんが今月の玲瓏星です。

『笑顔あふれる交流会を』

★２年１組　西永　颯真（そうま）　さん★

☆２年４組　斉藤　駿（しゅん）　さん☆

駿さんと颯真さんは、京都府立亀岡高校との交流会の際、アイスブレイクの地域クイズでユーモア溢れる司会を務め、みんなを盛り上げてくれました。修学旅行実行委員の企画担当者である二人の使命は、「亀岡高校と壱岐高校のみんなが打ち解けるよう、とにかく楽しませること」。颯真さんの情感豊かな表現や、駿さんの機転を利かせたアドリブに会場は大盛り上がりでした。両校を楽しませ、自分たちも輝いた二人が今月の玲瓏星です。

◆虹の原特別支援学校壱岐分校高等部よりベンチが寄贈されました！（令和７年１２月２２日（月））

虹の原特別支援学校壱岐分校高等部の生徒のみなさんより、ベンチの寄贈がありました。体調の悪い生徒が、送迎を待っている間、ベンチに腰を掛けられるようにと、4か月もの時間をかけて作ってくれました。虹の原特別支援学校壱岐分校高等部の生徒のみなさん、ありがとうございます。

【虹の原の生徒よりベンチを受け取る 重村 校長】

◆ 各部活動報告

【ヒューマンハート部】
ながさき「しま」のビジネスチャレンジ（12/20）
探究チーム　宮野、阿比留、峯
特別賞「しまのビジネスチャレンジ賞」

【サッカー部】
令和７年度長崎県高等学校新人体育大会サッカー競技
離島地区予選（12/21、12/26）
vs 対馬　0-2　負
vs 五島合同　1-1　引分

＜円陣を組む選手たち＞

【吹奏楽部】
第52回長崎県アンサンブルコンテスト（12/27）
クラリネット四重奏（石元、原田、松嶋、中尾）　銀賞

＜音色を奏でる生徒＞

◆ 海岸清掃ボランティア（令和７年12月6日（土））

石田町塩津浜で海岸清掃活動をしました。たくさんのごみを集めることができました。

＜清掃活動に励む生徒たち＞

◆ 未来デザインイノベーションフェア（令和7年12月21日（土））

2年生の5名が長崎西高校で行われた未来デザインイノベーションフェアに参加しました。生徒たちは総合的な探究の時間で取り組んでいる内容や課題を発表し、他校生や先生方からアドバイスをもらっていました。

＜熱心に話し合う生徒＞

◆ 行事予定（1/30現在）

2/21	土	学校開放（3年）
22	日	
23	月	【天皇誕生日】
24	火	
25	水	国公立大前期試験
26	木	卒業式設営 ↓
27	金	第3回コース交流会、特別編成授業Ⅲ期開始 卒業式予行練習
28	土	
3/1	日	卒業証書授与式、夏時間開始
2	月	
3	火	
4	水	進路講演会（2年）
5	木	
6	金	【3/1代休】
7	土	
8	日	国公立大中期試験、第3回英検二次試験
9	月	特別編成授業Ⅲ期終了
10	火	
11	水	入試設営
12	木	国公立大後期試験
13	金	LHR(卒業生体験発表+座談会)
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	合格者説明会
18	水	
19	木	
20	金	【春分の日】
21	土	
22	日	
23	月	競技大会（1、2年）
24	火	終了式、受納式、大掃除、離退任式
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

～ 1年間の思いを一文字に ～

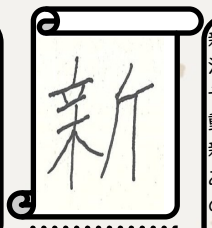
2025年を振り返ると、皆さんは、どの漢字を思いつきますか？
コース生の成長の軌跡を表現しました。（出席番号順）原文のまま

石原 理陽

初めての経験がたくさんあったのと成長を実感したからです。

小森 結翔

たくさんの困難と苦労をしてきたのですが、それもまた楽しいものだったからです。



白石 羚

新しい学校生活が始まり、テストや部活動の大会など新しい行事があったので、この字にしました。

野田 隼靖

中国語で、“もっと”という意味です。だから、今からももっと頑張りたいです。

福島 拳成

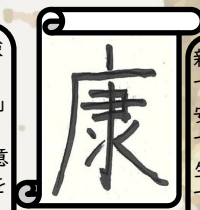
自分で決めた新しい道の中で、心配ごとや不安感と闘ったが、笑顔で、自分の花を咲かせながら、突き進めました。

松井 瑠花

一番嬉しかったことが、台湾交流や上海研修で、様々な国籍の人と国や言語の壁を超えて話せたことだったからです。

峯 颯花

良い人生経験になったことと旧字体の「驗」がもつ本来の集めるという意味から！知識を集める年ということです。



村井 文汰

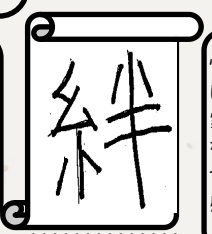
新しい土地での生活が安定し、健康で安定した生活を送れているからです。

出口 太陽

受検生でもあり、部活動でも最後の高総体があるので仲間と勝負し合いながら、支えてくださる人への感謝を忘れず、この1年を勝負の年としたい。

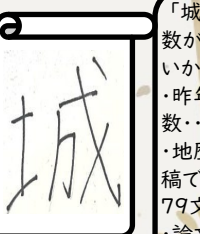
畑中 朋子

中国語検定に合格することができたのでまた、次の級にチャレンジしたいです。



三嶋 恵美

悩んだ時に、友達や家族とのつながりの大切さを強く感じました。



宮野 幸一

「城」を使った回数が圧倒的に多いから。
・昨年見た城の数・・・20城
・地歴甲子園の原稿で使った城・・・79文字
・論文内にある城の文字数・・・133文字

植村 甚天

毎日を大切に、悔いなく生きる。

片野 一帆

自分の進むべき道を探し、手探りで受験に挑戦した年だからです。

後藤 健

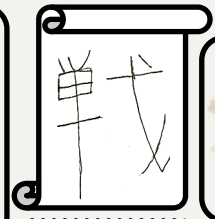
急激ではなく、日々の積み重ねによって、成長を実感することができました。

須賀 千城

人・音に関わり、興味・関心を磨くことができ、また関西の大学に進学するから。

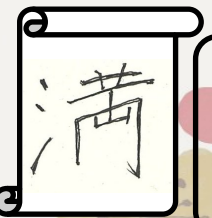
平川 喜樹

自分の中で大きな変化が起こり、また、大きく化けてやると言う願望もあります。



丸山 隼平

受験、甲子園、部活など様々な戦いを経験したからです。



山本 浩希

喜びも苦労も含めて、満たされた1年間でした。

吉田 美咲

3年生になって、様々なことに挑戦し続けたからです。

＊コース生が、多くの経験を通して、自らに気づきをもつことができた2025年だったようですね。離島留学生は、親元を離れてのしま親生活で、多くの愛情を受け、経験を積み、壱岐市の皆さんの温情に支えられ、こうして新しい年が、実り多き、「結」びとなりますよう皆で、歩みを進めます。